

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

「三滝中学校コミュニティスクール運営協議会（以下、『運営協議会』という。）」が発足し6年目となりました。

保護者・地域住民の方々が主体的に学校運営に参画し、学校教育活動の充実に向けて学校、保護者及び地域住民が協働して本校の「学校づくりビジョン」の実現を図るという運営協議会のねらいをふまえて本年度も活動してまいりました。

運営協議会のねらいの実現に向け、本校運営協議会では授業や行事の参観を通して生徒の実態を把握し協議するとともに、学校教育活動を地域に広める方策や生徒が地域で活動し関わりを深める方策等を話し合い、学校教育活動の深化に向けて取り組んでいます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

* 地域の教育力を生かした特色ある教育活動の実践事例

新型コロナウイルスの影響により縮小を余儀なくされていた地域行事も、少しずつコロナ禍以前のように開催できるようになり、保護者や地域の方々と交流する機会も増え始めました。

生徒の代表として生徒会本部役員が運営協議会に参加し、意見交流を行った際には、「今後、より多くの地域行事に積極的な参加をしてほしい」という呼びかけに対し、「たくさん参加して地域の方ともつながっていききたい」というやり取りも行われました。また、現在、生徒会が行っているペットボトルキャップを集める運動について、「市民センターにもポスターを設置して、地域に呼び掛けてはどうか。」という、より活動が広がっていくためのアドバイスをいただいたり、この活動の成り立ちを教えてもらったりするなど、さらに充実した活動になる言葉をいただく場面もありました。

【一人暮らしの高齢者に色紙を贈る取組】

20年近くの歴史となるこの取組は、長年継続され地域の方々からも大変喜ばれ、本校の特色ともいえる取組です。本年度は神前・川島両地区で取り組まれました。

2・3年生の生徒が美術科、総合的な学習の時間、学活などの時間の

なかで、地域に住む一人暮らしの高齢者の皆さんを元気づけるために色紙を作製します。その作製した色紙に、校区の小学生が作った折り鶴を添えました。これまでは、生徒会福祉委員の生徒が地域の方々のお宅を訪問し届けていましたが、今年度も福祉委員長等が地域の民生委員の方を通じて届ける形がとられました。



贈呈のセレモニーでは、民生委員の方から「本当にこの取り組みを待ちわびて楽しみにしてもらっている」と伝えてもらいました。



話を聞いた委員長がその言葉にいたく感動して、「このことを学校みんなに伝えたら、もっと取り組みにやりがいを持つと思う」と考え、お昼の放送で、その感想と来年に向けてのお願いを全校に伝えました。

本来この取組は、地域の介護・福祉施設や一人暮らしの高齢者の方々と実際に面談するなかで、高齢者の方々が喜ばれる姿を見た生徒たちの気持ちの高まりにつながるものです。また、生徒たちは満足感や充実感を得ることができ、自信にもつながる取組になっていることから、引き続き、取り組んでいきたいと考えます。

【漢字検定・英語検定の取組】



生徒の学ぶ意欲を持続させるために、本年度は漢字・英語両検定を年間2回ずつ実施しました。

いずれの機会にも多くの生徒が受検希望しており、生徒の意識の高さが感じられました。

この取組では、当日の試験監督をコミュニティスクールの委員さんなどに手伝っていただくとともに、申し込みの手続きや検定料の管理なども

行っていました。

このような関係者の方々のバックアップにより継続できている取組となっています。

【川島子ども未来塾（※小学校）】

この取組は、夏季休業中に地域の小学生に対する学習支援の取組で、コミュニティスクール運営委員長を中心に企画・運営され、コロナ禍を経て、今年度に復活開催と



なりました。地域の方や地元の学生さんたちに交じり中学生も参加し、小学生の学習の支援にあたるものです。

中学校では、本年度も参加希望者を募り、のべ10名程の生徒から希望があり、ボランティアとして参加しました。

参加希望の中学生なかには、小学生の時に当時の中学生から教えてもらった経験のある者が多く、地域のなかでの人と人とのつながりにもなる取組であるため、次年度以降も継続していきたいものとなっています。

【地域子ども教室（三滝未来塾）】

本市の『地域子ども教室』の取組として令和2年度から始まりました。地域の方や、本校の卒業生に当たる教育実習生に学習ボランティアをお願いしています。

今年度は、毎週1回、対象生徒を全校に広げて開催しました。10月からの開催となりましたが、最大で1日に30名ほどの参加がある日もありました。『気軽に話せる・質問できる「憩いの場」』という位置づけで、勉強をするだけでなく、学習ボランティアの人たちと色々な話ができる場として活動をしてもらっています。

参加する生徒の姿からは、学習ボランティアの方とのやり取りだけでなく、生徒同士で教え合う姿も見られ、とてもよい雰囲気があります。



【認知症サポーター養成講座】



本年度も地域の民生委員の方々が中心となり、生徒の前で寸劇を交え、認知症について知る事、支援の在り方等考える場面を提供しながら学ぶ時間を作っていただきました。

地域の方々が学校に入り、生徒へ授業をしていただく機会があまりないことから、集中して取り組む生徒の姿が多くありました。

次年度以降も引き続き来校いただき、学びの場面を提供してもらいたいと考えます。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

今年度5月より、これまで新型コロナウイルス感染症の影響等により制限のあった取組が、一定再開できるようになりました。コミュニティスクール委員の皆さんにも各行事等に参加していただいたり、授業参観をしていただいた中で、様々な意見や提案をいただきました。「単純に全

ての行事等を元に戻すだけでは、生徒や教師の負担になってしまう恐れもあるので、内容の精選を行い、より生徒が充実感を持てるように行ってほしい」という意見を真摯に受け止めて、学校運営を行っています。

また、生徒会本部を中心に、『自分たちが地域に関われることは何か』を考えたり、運営協議会から自分たちの活動にアドバイスをいただいたりと、交流を行えたことも生徒の活動の充実につながったものと考えます。

生徒が地域に出て地域の方々に期待され、活動を認められることを重ねていくなかで、生徒の取組の様子が変わってきています。充実感、満足感が、生徒の笑顔や積極性になって表現されることが多くなってきたように感じます。

3 今後に向けて

学校は、子どもたちにとってさまざまな活動を通し、失敗や成功の体験を繰り返し、気づき学ぶ場です。だからこそ、安心して登校できる場にしていかなければなりません。

感染症の影響から制限がなくなった今、引き続き、安心して学べる場を提供できるよう、いじめを許さない学校づくり、学校や地域で活動する中学生の姿を多くの人に周知するためのホームページの活用推進、さらには、地域人材の活用により、さらに多くのゲストティーチャーによる授業や講演会の実施等に取り組んでいきたいと考えています。そして、より一層、地域、保護者、学校の連携を深めていきたいと考えます。

令和5年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立三滝中学校

委員長 勝田 ひとみ

校長 大鹿 充宏

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回 運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子について ・学校づくりビジョン検討 ・年間計画の確認 ・事務手続き 等
6		
7	第2回 運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日（学校の様子について） ・学校指定物品に係る協議、確認 ・意見交換 等
8		
9		
10	地域子ども教室 『三滝未来塾』	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生への学習支援活動開始（週1回・月曜日）
10	第3回 運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子について ・全国学力、学習状況調査等の結果について ・今後の学校教育活動の予定 等
11	三滝祭参観	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動参観ならびに意見交換
12	第4回 運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子について ・高齢者への色紙贈呈について ・学校教育活動アンケートの実施について ・生徒会本部役員との懇談 <p style="text-align: right;">等</p>
1	漢字検定	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定の実施（監督等実施の補助）
2	第5回 運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子について ・今年度の教育活動の振り返り ・学校関係者評価について ・「活動報告」及び「支出内訳書」の承認 ・次年度CS活動について 等
3	第6回 運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式参加 ・様式3「学校関係者評価書」の承認